

1. 事故の概要

現地時間8月6日、モーリシャス南東沿岸にて座礁していたばら積み貨物船「WAKASHIO」(わかしお)から燃料約1千トンが流出。

2. 日本の支援①(危機管理フェーズにおける協力)

モーリシャス政府の支援要請を受け、国際緊急援助隊(計19名、一次隊(8月10日):油防除、二次隊(19日)及び三次隊(9月2日):環境調査)を派遣。油防除作業や環境分野の支援活動の他、沿岸警備隊への油防除研修や油防除関連資機材を提供し、9月18日に活動を終了。

3. 日本の支援②(中長期的な視点からの協力)

(1)9月7日、茂木外務大臣はジャグナット首相と電話会談を実施。モーリシャスの復旧と復興に向け、今後、迅速かつ中長期的な視点で**これまでに無い規模で協力を進める**旨伝達。ジャグナット首相は、**国際緊急援助隊の迅速な派遣や支援の申し出に謝意**を表するとともに、引き続き日本の協力を得たい旨発言。

- ①事故再発防止:海上航行安全システムや油流出事故に関する初動体制の強化等への協力
 - ②汚染された環境の回復: mangrove 林保全・再生の専門家派遣、サンゴ礁等の環境モニタリング、生態系の再生等への協力
 - ③地域住民、特に零細漁業者の生計回復: 漁業関連資機材の提供や沿岸漁業振興等の協力
 - ④経済の回復・発展に必要なその他協力: 財政面も含めてモーリシャスに寄り添う形で検討、貿易投資セミナーの開催や観光・貿易促進のための官民合同ミッションの派遣等
- (2)10月24日から**調査団**を派遣し、上記支援策の具体化のため、約2か月間の予定で専門的な調査を実施中。



ジャグナット首相による緊急援助隊視察



マングローブの生育状況や油の付着状況を調査

※ラムサール条約湿地のマングローブ林に油の影響は確認されなかったが、条約湿地外の一部のマングローブ林への影響が見られる。